



平成23年6月20日

卓話 『ろくろくの絆』
六本木ヒルズ自治会 会長
原 保 様

皆さんこんにちは。お招きいただき、ありがとうございます。私は六本木ヒルズのこの場所で生まれました。以前のこの土地は三方が高台に囲まれ、地の底のような所でした。南側は木が鬱蒼と茂り、私たち子供は山って言っていました。カブトムシ、クワガタがいて、セミがうるさいほど鳴きました。夜はフクロウが鳴き、イタチやタヌキもありました。水の流れて沢ガニを獲った覚えもごさいます。この通称藪下の水を使って金魚屋をやっていたわけですが、半纏を着た金魚屋さんたちが40人ぐらい、天秤で金魚、金魚と売りに出ていました。その水を求めて、この地にも長屋がぎっしり建っていました。戦争中、5月22日、25日の東京最後の空襲の時、私は体にかかる火を消しながら逃げましたが、焼夷弾がたくさん落ちて藪下はきれいに焼けました。焼けトタンで屋根を作り、ロウソク生活。だけど石垣からは水が流れ、戦災前と変わっていませんでした。この水を求めてでしょうか、また住宅がどんどん帰って来ました。ただ道は狭いままで、これが60年続き、そして再開発の話が起きたわけです。

再開発のことでうれしかったのは、ひとつは2003年4月1日の鍵の引渡しの時です。住民たちは工事中は工事の妨げになっちゃいけないので2回しか作っている部屋を見ることができませんでしたが、これからはもう何日でも何年でも住める。これは大変うれしかった。ふたつ目は麻布十番商店街の店主の総会が同じ年にこのグランドハイアットであって私と女房が招待されたとき。皆さんの前で、商店街の会長から六本木ヒルズを作ってもらっ

てありがとうとおっしゃっていただいたことです。六本木ヒルズを作るとき、地元の人たちから、お客様をとられちゃうというようなことを言われましたけど、人が集まる日曜日、5万人が六本木ヒルズ



ズに来れば1万人は地元に来るよと言って説得しました。その商店街の会長さんからありがとうと言われたことは、本当にうれしかったです。

私は5代目で、天保11年からの店を潰しました。遠山の金さんの時代です。下高井戸に先祖代々のお墓がごさいます。このお墓にご先祖様、入れてくれるのかなと思ったこともごさいます。でも私は胸を張って言いたい。ご先祖様、今この場所にはルイ・ヴィトンもあるしティファニーもアルマーニもあるんだよ。ですからこんないい街になったんですよって中に入りたいと思うんです。ただご先祖様はルイ・ヴィトンもティファニーもきっと知らないんじゃないか。

ヒルズという名前は日本には沢山ごさいます。私は森社長に、ヒルズは沢山あるけど是非日本一のヒルズにしてくださいとお願いしました。すると社長はこうおっしゃいました。世界一のヒルズになるように努力しましょう。訪れる方々を世界一のおもてなしの心でお迎えしましょう。私はその言葉は六本木ヒルズの憲法第1条じゃないかと思います。ありがとうございました。